

## 絵本から学ぶ考え方

絵本の中には考える力や問題の解決策のヒントがあるとしたら・・・。  
読み方や見方が変わってきますよね。今回は大きなかぶの絵本からいろいろな考え方を  
読み解いていきたいと思います。  
子どもたちから大人気の「大きなかぶ」という絵本ですが、簡単なあらすじから紹介して  
いきます♪

📖 むかしむかし、おじいさんがかぶのたねをうえました。

おじいさんはおおきく育ったかぶを抜こうとするが、まったく抜けません。

そこに、いろんなひとや動物が手伝いにやってきます。

(おばあさん→孫娘→犬→猫→ネズミ)

みんなで力をあわせると、おみごと！かぶが抜けた。というお話です。



### どんなに小さな力でも必要になる時がある

おじいさん、おばあさん、孫娘、犬、猫の力では、どうにも抜くことができなかった大きな  
かぶ。最終的に加わったのはねずみでした。本来であれば小さなねずみの力など微力なもの  
のように感じますが、『おおきなかぶ』においては重要な最後の一匹です。

このことから私たちは「どんなに小さな力でも役に立つ」ということを学ぶことができるの  
ではないでしょうか？

### 問題解決の鍵は、意外な方法かも

おおきなかぶを引き抜くために、猫が最後に連れてきたねずみ。おじいさんもおばあさんも  
孫娘も、おそらくねずみの力を借りることは当初から頭になかったと思います。

何か問題を解決したいときには、これまでは切り捨てていたような意外な方法を試して  
みるのもよいかもしれないと絵本が教えてくれているように感じました。

### 違う視点から見えていくと・・・

最初からおじいさんは、かぶを抜くという目的よりも、**みんなで協力**させることが目的だっ  
たのではないか・・・？ 絵本を子ども達に読みながらいろいろな視点で物事を考えながら  
捉えて柔軟に現代社会に対応していかないといけないと学びに繋がりました。

(本間)



おじいさんの足、かぶが抜けないように止めているようにも見えます。